

# トビウオ通信 (R3 第8号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

## 《令和3年秋季におけるケンサキイカ漁況予報》

山陰沿岸での秋季(9月~12月)におけるケンサキイカの漁況は、①日本海南西海域における資源・来遊状況と②高水温帯の分布状況が関係していることが知られています。それらの情報を基に、県内各地におけるケンサキイカの漁況予測を行いました。

### 漁況予報の概要

対象魚種:ケンサキイカ秋季来遊群(秋季:9月~12月)

対象漁業:イカ釣り漁業(5トン未満船、5トン~30トン船)

対象地区:出雲地区(松江~出雲)、石見地区(大田~益田)、隠岐地区(島前~島後)

漁況予測:出雲地区、石見地区および隠岐地区の1日1隻当りの漁獲量は、不漁であった前年を上回るが、不漁前の平成30年以前の水準には及ばない。

### 予測に用いた情報

#### 【① 日本海南西海域における資源・来遊状況】

秋季に山陰沿岸に来遊するケンサキイカ(秋季来遊群)は、来遊前は日本海南西海域の大陸棚上に広範囲に分布しています(図1)。

夏季(8月)に九州から山口沖で浜田の沖合底びき網漁業(以下「浜田沖底」)により漁獲されるケンサキイカは、秋季に沿岸域に来遊するものと同一資源と考えられています。実際、浜田沖底とイカ釣り漁業でのケンサキイカの漁獲状況には強い関係性がみられます(図2)。

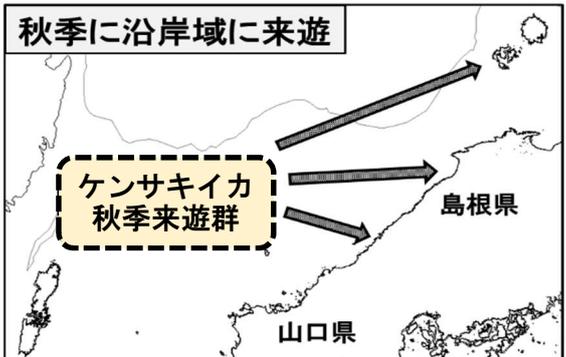


図1 秋季におけるケンサキイカの来遊イメージ。大陸棚上に分布していたケンサキイカは秋季に沿岸に来遊する。

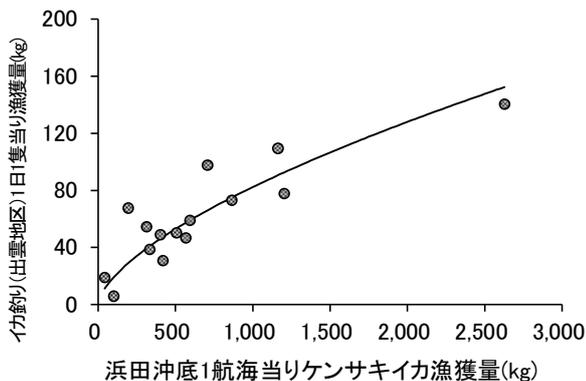


図2 8月の浜田沖底と秋季のイカ釣り(出雲地区)の漁獲状況の関係性。浜田沖底で漁獲されるケンサキイカの量が多いとイカ釣りの漁獲量が多い関係にある。

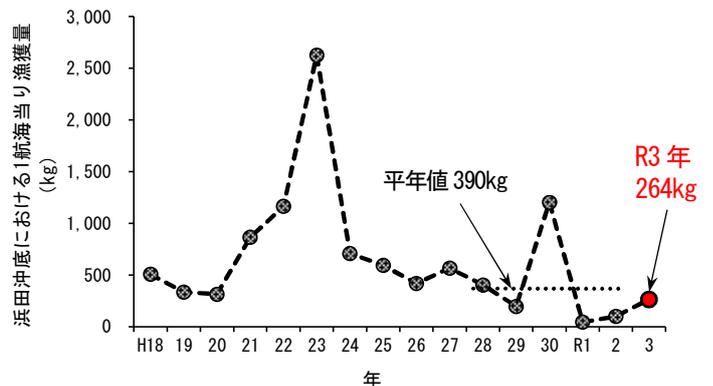


図3 8月の浜田沖底における1航海当りケンサキイカ漁獲量の推移

したがって、8月時点での浜田沖底における1航海当りのケンサキイカ漁獲量は、秋季に山陰沿岸に来遊するケンサキイカの来遊状況を占う指標になると考えられます。令和3年の漁獲量は264kg（図3）で、平成18年以降で最低値であった令和元年（44kg）に次いで低かった前年（令和2年：102kg）を上回りましたが、平年値（平成28～令和2年の5年平均：390kg）を下回りました。

## 【② 高水温帯の分布状況】

ケンサキイカは暖水域を好むイカ類であり、特に秋季では山陰沿岸の水深100m層に22℃以上の高水温帯が広範囲に分布する場合、山陰沿岸ではケンサキイカの良い漁場が形成されますが、水温が22℃を下回ると不漁となる傾向が見られます（図4）。

したがって、秋季の22℃以上の高水温帯の拡がり具合は、秋季に山陰沿岸に来遊するケンサキイカの来遊状況を占う指標になると考えられます。令和3年の秋季の水温分布予測（図5）を見ると島根県沿岸には22℃以上の高水温帯があまり拡がらないと予測されています。 ※使用した水温データは「拡張版日本海海況予測システム JADE2」より入手

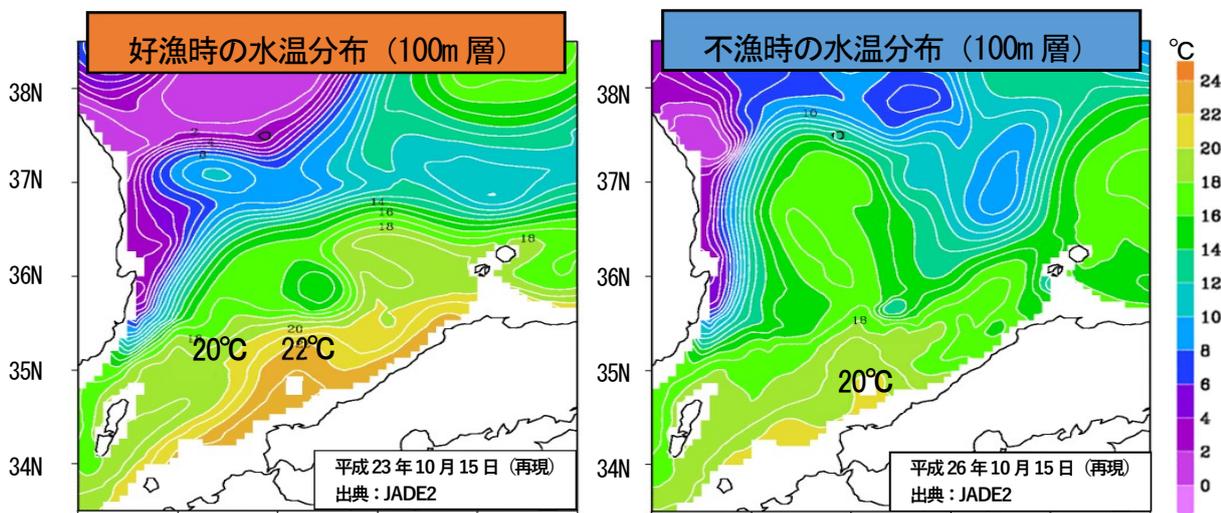


図4 ケンサキイカ的好漁時と不漁時の水温分布（100m層）の比較。好漁時（左図）には、沿岸に高水温帯が広範囲に拡がる。

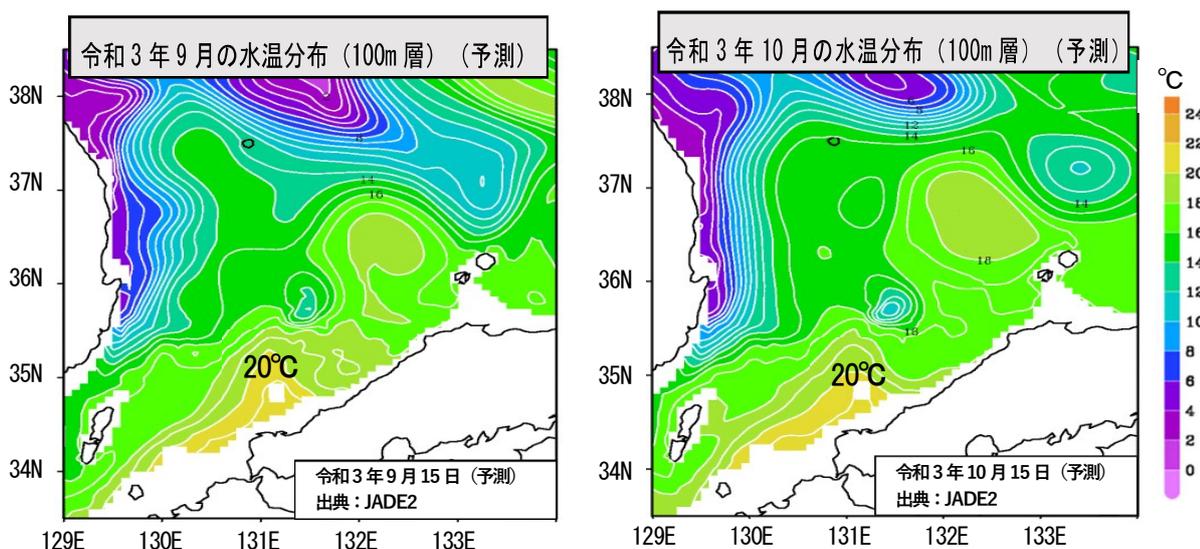


図5 令和3年の秋季の水温分布の予測図（100m層）。9月（左図）、10月（右図）とも高水温帯があまり拡がらないと予測されている。

## 新たな手法による地区ごとの漁況予報

前年までは、これら①、②のデータから各地区の秋季（9月～12月）におけるイカ釣り漁業（5トン未満船、5トン～30トン船）の1日1隻当りの漁獲量を予測していました。しかし、近年これらの関係性が弱まってきており、山陰沖へのケンサキイカの来遊を左右する要因が変化した可能性があり、従来の手法では上手く予測ができなくなりました。

そこで今回は予測手法の見直しを行い、8月の浜田沖底の1航海当りケンサキイカ漁獲量と各地区の秋季のイカ釣り漁業の1日1隻当りの漁獲量の新たな関係性（図2）から、以下のとおり各地区の今後の状況を予測しました（図6）。

### 【出雲地区（松江～出雲）】

1日1隻当りの漁獲量は約35kgと予測され、不漁であった前年（6kg）を上回り、不漁前の平成30年の水準には及ばないと考えられます。

### 【石見地区（大田～益田）】

1日1隻当りの漁獲量は約42kgと予測され、不漁であった前年（16kg）を上回り、不漁前の平成30年の水準には及ばないと考えられます。

### 【隠岐地区（島前～島後）】

1日1隻当りの漁獲量は約30kgと予測され、不漁であった前年（19kg）を上回り、不漁前の平成30年の水準には及ばないと考えられます。

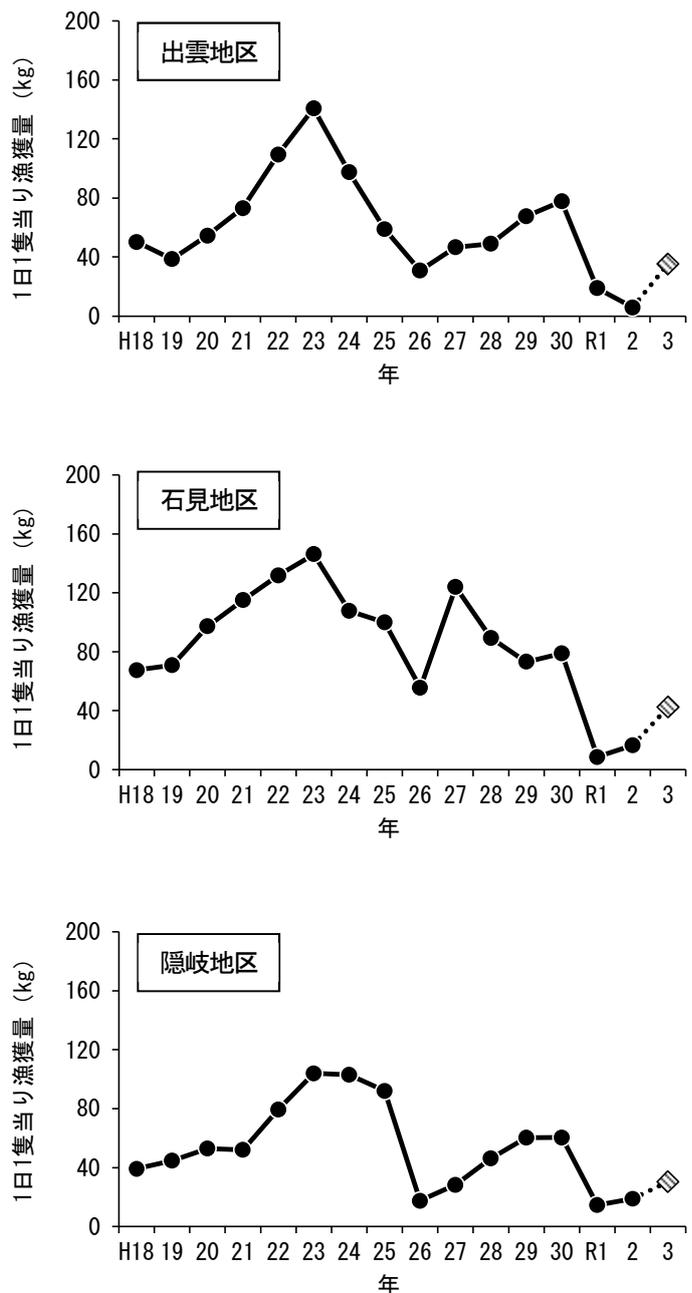


図6 各地区のイカ釣り漁業における1日1隻当りの漁獲量（9月～12月）の推移。令和3年は予測値。